

はたちの献血キャンペーンの名称変更について

1. 昨年度の調査会でのご意見

○献血が二十歳からではないのかという誤解がある。選挙権も 18 歳からとなったので、名称等を検討したほうがよいのではないか。

○高校生になったら献血できるということを大々的にキャンペーンをしていただければ、高校生になったら献血をやろうという思いが浸透していくのではないか。

○「はたちの献血」というブランドでそのまま続けても良いが、献血は 16 歳からできるということ、また、17 歳男性から 400 ミリリットル献血ができるということはあわせて周知してはどうか。

○二十歳というのは、まだ今のところ日本では区切り。残してもいいのではないか。

○今、日本の社会の中では親御さんの意見というのがかなり主流を占めているところで、その折り合いというのはどういうふうにつけていくのかというのが、教育現場では悩むところだと思う。そこに配慮しながらも若年層の献血を高めていただくというキャンペーンをどのようにしていくかということは重要である。

2. 見直しに関する論点について

○名称を変更するか（変更する場合はどのような名称又は表現が良いか）

○名称はそのまま残し、採血可能年齢の周知を強化するか

＜議論にあたっての留意点＞

- ・特定の年齢にとらわれず、若年層を対象としたキャンペーンである。
- ・献血者が減少しがちな冬期に行うキャンペーンである。
- ・昭和 50 年に第 1 回を実施し、長期に渡り継続しているキャンペーンである。
- ・「はたちの献血」キャンペーンは、他の普及啓発手段と比べ、認知度は高い。
- ・現行では、採血可能年齢が「二十歳」とであると誤って認識される恐れがある。